

令和5年度 第1回大津市科学館運営協議会

令和5年6月22日(木) 15:10～

1 挨拶

2 委員紹介

3 役員選出

4 会長挨拶

5 協議及び質疑

(1) 令和5年度 大津市科学館運営の方針及び事業計画について

委員 ご質問やご意見があれば

委員 ①移動教室の学習時間は伸ばせるのか。昨年は展示ホール学習とプラネタリウム学習がそれぞれ40分ずつで慌ただしかった。

②移動教室は今6年生が対象だが、中学生を対象とした事業を科学館発信でできないか。

事務局 ①については、通常は45分で実施している。40分にされたのは学校側の御都合によると思われる。45分の内容が50分ぐらいに伸びることはあるが、50分以上になると子どもの集中が続かないと思われる。

②については、交通費を出して予算を取っているのは小学校6年生分だけ。しかし、プラネタリウムも展示ホールも事前に申し込みをしていれば、大津市の中学校は減免になるので、中学生もたくさん来てほしい。内容も中学生に合った投影をすることはできる。

委員 琵琶湖ウォッチング・シアターのリニューアルの業者選定のプロセスや仕様書は、業者に丸投げなのか。ある程度科学館の意見を入れていくのか。

事務局 科学館として、ある程度は仕様書をつくっている。こと細かく指定まではしない。今ある財産を使えるように、加えて新たなコンテンツも加えてと考えている。

委員 琵琶湖ウォッチング・シアターは、ソフトもハードもリニューアルするのか。現

- 状は、投影が始まった時に周りの照明が落ちないので、今のプログラムは暗くて、見にくい。新しくするなら、集中して見ることができる工夫がほしい。
- 事務局 ランプを交換すれば、多少は明るくなるが、今のプロジェクターは限界に近い。なので、リニューアルを考えている。貴重なご意見ありがとうございます。
- 委員 琵琶湖ウォッチングという名前が付いている以上、生物の話が絡んできたりすると思うが、専門的な正しい知識や情報が必須。業者に任せてしまうと、完成に近づいてからだと修正することができなくなると思われるので、作る過程で専門家に相談しながら制作していく必要がある。
- 委員 星座物語とオリジナル番組について詳しく教えてほしい。
- 事務局 星座物語は、7～8分長くても10分程度で、成安造形大学と科学館が作っているアニメのようなもの。原作は科学館が作っている。オリジナル番組は、科学館職員がパワーポイントや、プラネタリウム投影機の機能を使って製作している番組。特別番組というのは、業者に賃借料を払って投影している番組。特別番組はキャラクターなどの持っている力で集客している。オリジナル番組の方は、科学館職員の力量が発揮される番組なので、力を入れている。
- 委員 7月は特別番組の3種類が投影されるのか。
- 事務局 夏休みはレジャーを求めてこられる客層が多いので、そのニーズに応えられるように「コナン」や「しまじろう」を多めにスケジュールを組んでいる。特に「しまじろう」は夏休みしか投影できない契約となっているので、このようなスケジュールになっている。
- 委員 特別とはどういうことなのか。
- 事務局 特別という名前を使っているのは、普段の平日は団体投影のみだが、夏休みの場合は平日も、普段の土日祝日のような投影を特別に行っているので、特別番組としている。一般のお客さんにはキャラクター番組というような呼び名の方が、分かりやすいのかもしれない。
- 昔は、長期休暇の時（春休み、夏休み、冬休み）だけ、このような番組が使えて、それ以外の時期は、ずっとオリジナル番組だけだった。それが、だんだんと賃借することができる期間が変わり、通年投影できるようになり、特別とは言えないほど多く投影できる契約になってきた。

- 委員 特別という名前は、魅かれるのでそこはそういう使い方でもいいと思う。
- 委員 パンフレットについて。
今年から大津市内では「tetoru」というソフトを使い、お便りを全て保護者の携帯に送るよう勧めていて、本校では現在登録率は99.6%となっている。現在のパンフレットは3つ折りになっているが、A4縦のパンフレットにし、URL にリンクを設定すれば、データでもらったチラシからホームページ等にアクセスしやすくなる。学校によっては、紙媒体よりも、URL 等にリンクを設定したデータ媒体の方を希望する学校も出てくると思われる。
- 事務局 毎月の月間ポスターは、A4で学校に送っている。保護者にデータで送れるのであれば、そのように活用できるようにしていきたい。
- 委員 学校では子どもたちは、その場で検索までは進めないで、家庭に届けば親が見るであろう、デジタル時代の方法。それを科学館が作っても、実際に保護者に届くかは、その学校の先生方のプレゼンテーションが必要になってくるだろう。
- 委員 幅広い年齢層の来館者が来ているのは嬉しい。プラネタリウムの9月からのオリジナル番組は「紫式部」がテーマになっているが、これはまさに、ご年配層には人気が出そう。もちろん子どもたちにも来館してほしいが、生涯学習センターで催し物をしているご年配の方も「プラネタリウムを見に行こうかな」と思ってもらえればすごく嬉しい。
また、プラネタリウムの来館者の全国との比較で、すごく良い成績を残しているのは、実績として強い力になる。これだけ大津市科学館が頑張っているということ、数字で後押しできるというのは強み。ただ、プラネタリウムを見る、幅広い市民、県民のことを第一に考えて、オリジナル番組を作り、操作する職員の心配りなどといったところが大事になってくると思うので、数字も大切だがそういう面も重々お願いしたい。
- 事務局 まさに、今作っている「紫式部が見た月」を製作するにあたって、石山寺が持っている画像や、歴史博物館が持っている浮世絵等を事前に入手している。科学的かと言われればそうではないかもしれないが、文化としてそういうものを取り入れながら制作していければと思っている。
- 委員 そのオリジナル番組は、その時代の星座が見れるのか。

事務局 千年前もプラタリウムでは再現できるが、今とほとんど変わらない。なので、その時代の再現というよりも、昔から日本人が月にあこがれてきたという文化的な歴史的なものも含めて、今の月の最新情報はどうなっているのかを発信していこうと考えている。また、プラネタリウムの投影期の機能を活かして、地球から宇宙へ出発し、月に着陸し月世界へ行くというような内容も考えている。

委員 先程展示ホールを案内していただいたときに、左回りで案内してもらったが、来館者は右回りか左回りどちらが多いのか気になった。科学ではどういう順番で情報を得ていくかが大切。自由に見れるのはもちろん良いことだが、どちら回りからかを考えると、限られたスペースで展示を深めるきっかけにもなるかと思った。下のフロアは、どちら周りでも最初に出会うのは顕微鏡。顕微鏡というのは、学校現場では、自分で作ったプレパラートを自分の目で観察することが、一番生徒にとって魅力的な部分。見本のプレパラートをいくら丁寧に作って大画面で見せても、そのプレパラートにパワーがあれば初めは見ると、継続して生き生きした活動が続くかと言えばそうではない。なので、自分でプレパラートを作れる環境があればより良いと思った。

事務局 案内時に左から行ったのは、メダカの卵や、今朝とったプランクトンを見てほしい意識があり、右から行くと鉱物の見本のプレパラートが置いてあるだけなので、手がかかっている物を見てほしいという意識から左から行ったのだと思う。今度「顕微鏡教室」というものがあって、事前に12人を事前募集して実際膳所公園までプランクトンを採りに行きプレパラートを作り研究するという事業はある。また、時々ではあるが土日祝日に実施している「わくわくサイエンス」では顕微鏡を使うこともある。そこでは、いろいろなものを見てみようということで、自分の髪の毛をみたり、プランクトンを見たりしていることもある。常設展示で、顕微鏡のコーナーに人員を配置し続けることができれば、そのようなことが可能かもしれないが現状の人員では厳しい。

委員 現状のプランクトンコーナーは、今のプレパラートで良いとは思いますが、モニターが小さい。岩石標本の方の偏光顕微鏡の内容は、学校の資料集でも見れる。ああいうものを見せるよりも、岩石をあそこまで薄くするにはどうしているのか、というような展示の方が、生徒は興味を持ちそう。

委員 科学館に行った園児たちが「先生今日な、今日の夜の星を僕ら見てきてん！」と、留守番をしている、職員に喜んで伝えていた。子どもたちにとっては、空を見る、星を見るというのが少ない中で、プラネタリウムをきっかけに「今日の星はな」「今

日の月はな」という話が出てきた。幼児にとっては、体験し面白いと思うことが大切で、展示ホールは、内容的に幼児にとって十分に活かしきれない部分があるが、やはり触れたり見たりできるというのは、近隣の園にとっては恵まれた環境。ただ、大津市全体ではやはり車がないと中々来館できない。京阪沿線の園はなんとか来館できるかもしれないが、園でバスを借りてくるのは、多くのお金がかかってしまうので地域差がでてしまう。大津は南北に長いので、科学館という施設があるのは知っているが、大津の園の全ての子どもたちが行けるかというところはわからない。

パンフレット等を配れば奪い合いになるぐらいの気で、子どもたちが持ち帰ったものを保護者が見ると、幼児は無料だからということで、レジャーとしては行きやすいが、園として未就学の子どもたちを公共交通機関で連れてくるのは難しい。どうにもならないことだが、もったいない。

パンフレットもデジタル媒体だけでなく、紙媒体だと子どもから保護者に直接わたるので、アピールに繋がっていく。

委員 漢字が読めなくても、この紙媒体のパンフレットには良い情報が入っている。

委員 コロナがあけて、実際に触れるようになったのは本当にいいなと思って、展示を見ていた。去年、園の保護者と話していると、プラタリウムのチケットが、当日混んでいて売り切れて買えなかったという声をよく聞いた。

事務局 今年は座席も90席になっているので、少しは緩和されるかと思うが、同時に世間の考えも「外にお出かけしよう」という様子が見られるので、今年もまた多いかもしれない。残席数をホームページで出す努力はしているので、何度もチャレンジしていただけるとありがたい。

事務局 条例改正の中で前売り券を売れるように改正した。前売り券だと事前購入ができるが、どこで売するのか、購入しても来られなかったらどうするのかなどの問題がいろいろある。また、もう一つの問題は電子マネー。キャッシュレスが進んでいく中で、大津市でいうと歴史博物館が導入しているが、今後当館も導入していくとすると、手数料の問題が出てくる。現在は現金で問題ないが、電子マネーは時差が出てくる。世の中全体の動きを見ていると避けて通れないと思っているので、大津市全体の施設で整理しながら導入していきたいと思っている検討課題である。